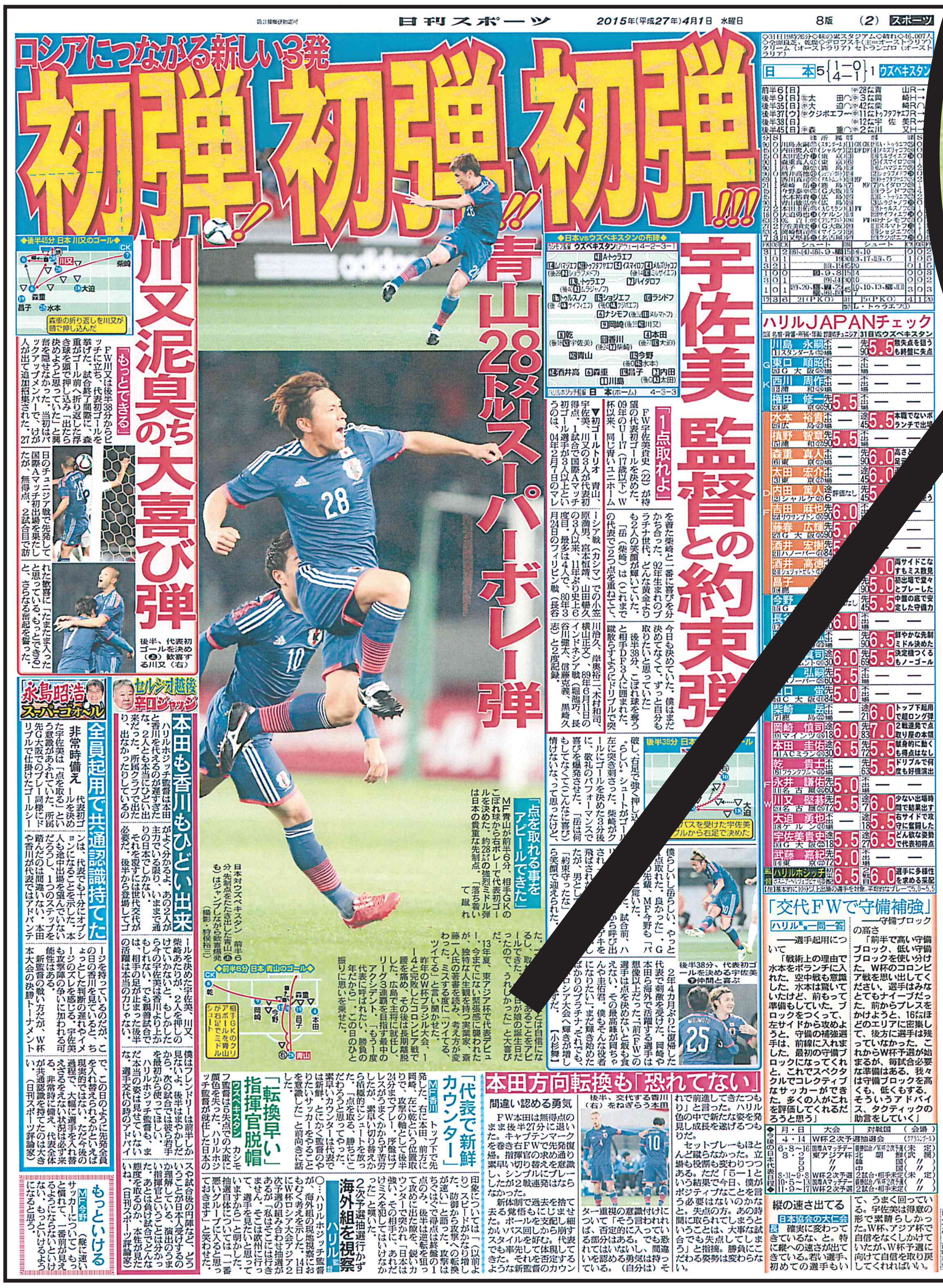
作陽高等学校卒 青山敏弘選手は、この本でメンタルを鍛えた！！！

『日刊スポーツ』2015年4月1日の記事より

（C）日刊スポーツ新聞社



ロシアにつながる新しい3発

初弾！初弾!!初弾!!!

青山28メートルスーパーボレー弾

「点を取れる事をアピールできた」

MF青山が前半6分、相手GKのこぼれ球から右ボレーで代表初ゴールを決めた。約28メートルの強烈ミドル弾は日本の貴重な先制点。「落ち着いて蹴れた。ゴールを取れたことは自信になるし、取れる選手であることをアピールできた。一昨日が娘の誕生日だったので、うれしかった」と大喜びだ。

13年夏、東アジア杯で代表デビュー。今までにない緊張感に襲われたが、独特な人生観を持つ実業家、斎藤一人氏の著書を読み、考え方が変わった。ミスする度に「ツイてる、ツイてる」と言い聞かせた。

昨年のW杯ブラジル大会、1－4と完敗したコロンビア戦で腰を痛め、その後は長期離脱した。広島で主将に就任し、リーグ3連覇を目指す最中のアクシデント。「もう1度代表に呼ばれたい。勝負の年だから」。この日のひと振りに思いを乗せた。

日本対ウズベキスタン　前半6分、先制点をたたき出した青山（上）はジャンプしながら歓喜爆発（撮影・狩俣裕三）

◆前半6分 日本 青山のゴール◆

相手GKのクリアボールを青山が右足でミドルシュート

川又泥臭ちの大喜び弾

「もっとできる」

FW川又は後半38分からピッチに立ち、代表初ゴールを挙げた。試合終了間際に、森重がゴール前へ折り返した浮き球を頭で押し込み「出たら決めようと思っていた」と興奮を隠せなかった。当初はバックアップメンバーで、けが人が出て追加招集された。27日のチュニジア戦で先発して国際Aマッチ初出場を果たしたが、無得点。2試合目で訪れた歓喜に「たまたま入ったと思っている。もっとできる」と、さらなる奮起を誓った。

後半、代表初ゴールを決め（上）歓喜する川又（右）

◆後半45分 日本 川又のゴール◆

森重の折り返しを川又が頭で押し込んだ

宇佐美 監督との約束弾

「1点取れよ」

FW宇佐美貴史（22）が待望の代表初ゴールを決めた。09年のU－17（17歳以下）W杯以来、同じ青いユニホームを着た柴崎と一番に喜びを分かち合った。92年生まれのプラチナ世代。どんな黄金よりも2人の笑顔が輝いていた。

「岳（柴崎）は（これまでの代表で）2つ点を重ねてて、今日も決めていた。僕はまだ決めてなくて、ずっと自分も取りたいと思っていた」

後半38分、こぼれ球を奪うと相手DF3人に囲まれた。蹴散らすようにドリブルで突破し、右足で強く押し込［illegible］“らしい”シュートがゴール左に突き刺さった。柴崎がクールにゴールを決めた3分後に、敬礼のパフォーマンスで喜びを爆発させた。「岳は何もしてなくて（こんなに喜び）情けないなって思ったけど、［illegible］ら笑顔で迎えられた。

［illegible］男として守りきった。「約束守ったな」・指揮官か［illegible］

僕らしいし岳らしい。やっと1点取れた。良かった」。G［illegible］の先輩、MF今野も「バ［illegible］

2年4カ月ぶりに復帰した代表で刺激を受けた。岡崎や本田ら海外で活躍する選手は想像以上だった。「前（FW）の選手は点を決めないと飯も食えない。その最高峰が岡ちゃんや圭佑君。僕もそんな役者になりたい」。まだ輝き始めたばかりのプラチナ。それでも、W杯ロシア大会へ輝きが増していくはずだ。【小杉舞】

▼初ゴールトリオ　青山、宇佐美、川又の3人が代表初得点。1試合で国際Aマッチの代表初ゴール選手が3人以上というのは、04年2月7日のマレーシア戦（カシマ）での小笠原満男、宮本恒靖、山田暢久の3人以来、11年ぶり史上6度目。最多は4人で、80年3月24日のフィリピン戦（長谷川治久、岸奥裕二、木村和司、横山正文）、89年6月11日のインドネシア戦（堀池巧、長谷川健太、信藤克義、黒崎久志）と2度記録。

後半38分、代表初ゴールを決める宇佐美（下）仲間と喜ぶ

◆日本vsウズベキスタンの布陣◆

日本 5（1－0、4－1）1 ウズベキスタン

永島昭浩 スーパーゴォ～ル

全員起用で共通認識持てた

非常時備え

代表初ゴールを決めた宇佐美は「点を取る」という意識があふれていた。所属先G大阪でのプレー同様にドリブルで仕掛けたゴールシーンは、代表でも十分にオプションになることを示した。本人も途中出場を望んでいないだろうし、1つのステップを踏んだのは間違いない。本田や香川が代表ではアドバンテージを持っているのだが、この日の香川を見ていると、ちょっとした判断の遅れやイメージのズレを感じる。宇佐美も攻撃陣の争いに加われる可能性はある。

新監督の戦い方だが、W杯本大会の決勝トーナメントで、この日のように先発全員を入れ替えられるかといえば現実的ではない。ただ今後の過程で、大幅に選手を入れ替えざるをえない状況は必ず来る。非常時に備え、代表全体が共通認識を持てたのは大きい。（日刊スポーツ評論家）

セルジオ越後 辛口ジャッジ

本田も香川もひどい出来

ハリルホジッチ監督は本田と香川を代えるのが遅すぎたな。2人とも本当にひどい出来だった。所属クラブで出たり、出なかったりしているのがよく分かるよ。あの2人が主力でいる限り、いままで通りの日本でしかない。それを覆すには世代交代が必要だ。後半から登場してゴールを決めた宇佐美、川又、柴崎あたりが、2人を押しのけていかないと。もしかしたら今の宇佐美は香川より上かもしれない。でも親善試合では、相手の足が止まった後半の活躍は本当の力じゃない。僕はフレンドリーは前半しか見ないよ。後半はまやかしだから。次の試合では彼ら若手を最初から使ってほしい。ハリルホジッチ監督も、まだ本当の姿は見せていないな。選手交代の時のアドバイスや試合後の円陣など、どういうことが日本人受けするのか理解している。演出のうまい指揮官ということは分かった。あとは負け試合でどんな態度を取るのか、本性が見たいね。（日刊スポーツ評論家）

もっといける

MF今野　「（縦に速いサッカーについて）もっと慣れて、一番前が見えるようにならないといけない。もっといけるようになると思う」

「代表で新鮮カウンター」

MF香川　トップ下で先発した。右に本田、前方に岡崎、左に乾という位置取りで、攻撃の軸として後半24分までプレー。序盤はプレスがうまくかからず苦労したが、素早い切り替えから積極的にシュートを放った。「点を取る、勝ちにこだわろうと思ってやった。素早いカウンターは代表では新鮮。とにかく監督のやりたいサッカーをやることを意識した」と前向きに話した。

「転換早い」指揮官脱帽

ウズベキスタン　カシモフ監督は5失点での大敗に顔色を失った。ハリルホジッチ監督が就任した日本の印象については「（以前より）スピードがかなり増した。防御から攻撃への転換が速い」と語った。攻撃はちぐはぐで得点は終盤の1点のみ。後半は逆転を狙って攻めに出た隙を、鋭いカウンターで突かれ「日本は強い。その相手に、あれだけミスを犯してはいけなかった」と嘆いた。

ハリル監督 2次予選抽選行かず 海外組を視察

○…ハリルホジッチ監督が、海外組の現地視察におもむく考えを示した。14日にW杯ロシア大会アジア2次予選の組み合わせ抽選があるが「私はそこには行きません。そこは欧州に行って、選手を見たいと思っています」と明かした。抽選自体については「一番悪いグループに入ると思っておきます」と笑わせた。

本田方向転換も「恐れてない」

間違い認める勇気

FW本田は無得点のまま後半27分に退いた。キャプテンマークを巻き右FWで先発復帰。指揮官の求め通り素早い切り替えを意識し、シンプルにプレーしたが2戦連発はならなかった。

新体制で過去を捨て去る覚悟もにじませた。ボールを支配し細かいパス回しから崩すスタイルを好む。代表でも率先して体現してきた。それを否定するような新監督のカウンター重視の意識付けについて「そう言われれば、否定的に入っている部分はある。でも恐れてはいないし、間違いを認める勇気は持っている。（自分は）それで前進してきたつもり」と言った。ハリル色の中で新たな姿を発見し成長を遂げるつもりだ。

セットプレーもほとんど蹴らなかった。立場も役割も変わりつつある。ただ「5－1という結果で今日、僕がポジティブなことを言う必要はないのかなと。失点の方。あの時間に取られてしまうということは、大事な試合でも失点してしまう」と指摘。勝負にこだわる姿勢は変わらない。

後半、交代する香川（右）をねぎらう本田

「交代FWで守備補強」

ハリル監督一問一答

――選手起用について

「戦術上の理由で水本をボランチに入れた。空中戦も意識した。水本は驚いていたけど、前もって準備もしていた。ブロックをつくって、左サイドから攻めようと。守備の補強選手は、前線に入れました。最初の守備ブロックになってくれと。これでスペクタクルでコレクティブなサッカーができた。多くの人がこれを評価してくれるだろうと思う」

――守備ブロックの高さ

「前半で高い守備ブロック、低い守備ブロックを使い分けた。W杯のコロンビア戦を思い出してください。選手はみなとてもナイーブだった。前からプレスをかけようと、16メートルほどのエリアに密集して、後方に選手は残っていなかった。これからW杯予選が始まるが、毎試合必要な準備はある。我々は守備ブロックを高くも、低くもする。そういうアドバイス、タクティックの助言をしていく」

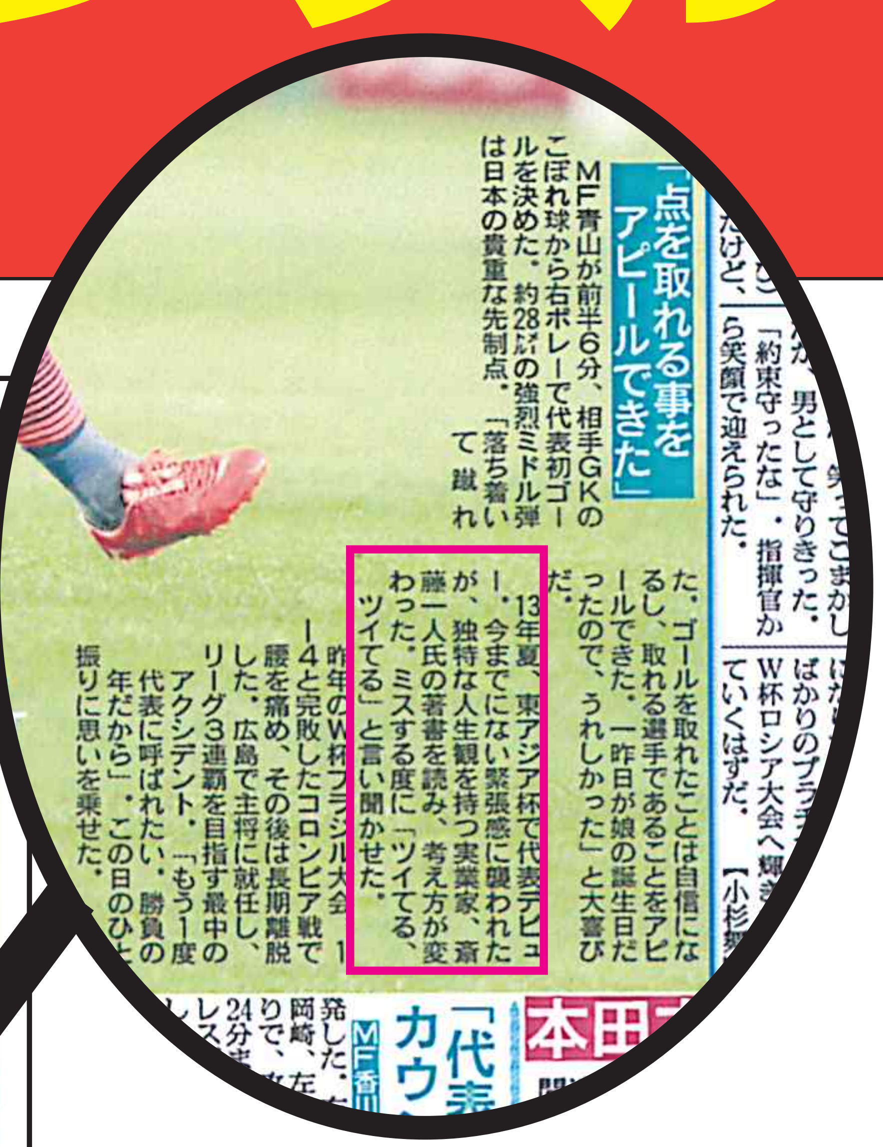
◆今後の日本代表日程◆

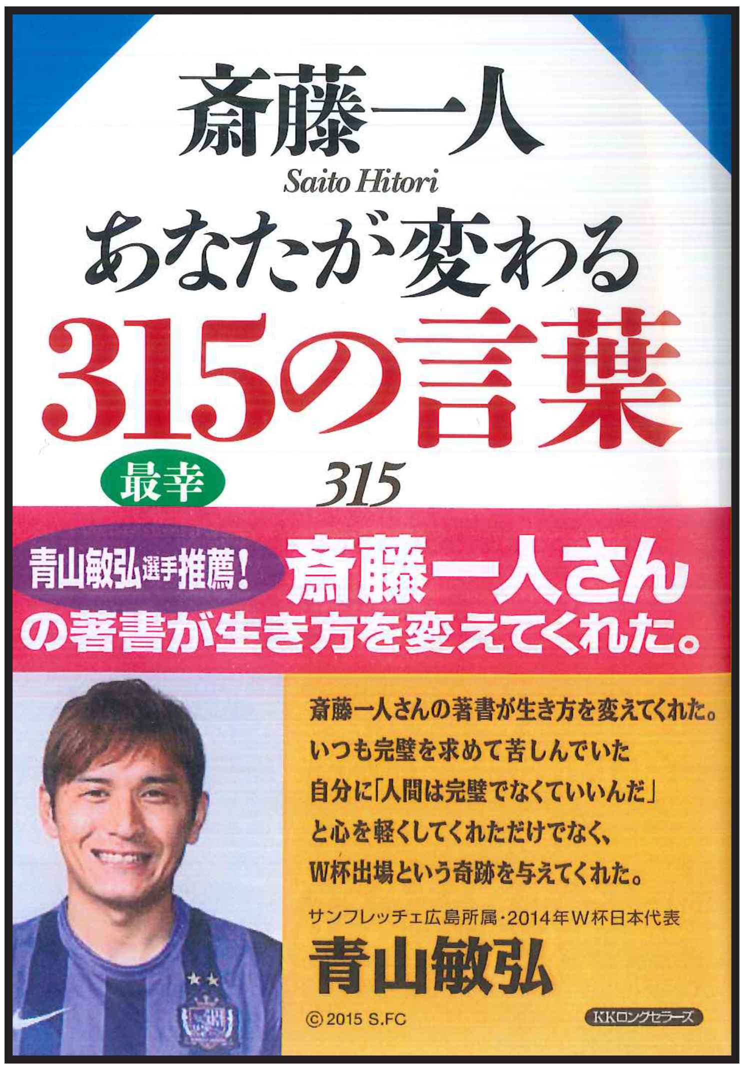
月・日	大会	対戦国（会場）
4・14	W杯2次予選抽選会	（クアラルンプール）
6・8～16	国際Aマッチデー	親善試合/W杯2次予選（未定）
8・2	東アジア杯	北朝鮮（武漢）
5	〃	韓国（〃）
9	〃	中国（〃）
8・31～9・8	W杯2次予選	2試合・相手未定（未定）
10・5～13	国際Aマッチデー	親善試合/W杯2次予選（〃）
11・9～17	W杯2次予選	2試合・相手未定（〃）

縦の速さ出てる

日本協会の大仁会長　確実に変わってきているな、と。特に縦への速さが出てきている。若い選手、初めての選手もいて、うまく回っている。宇佐美は得意の形で素晴らしかった。W杯、アジア杯で自信をなくしかけていたが、W杯予選に向けて自信を取り戻してくれればいい。

レイアウト西村和也





斎藤一人
Saito Hitori
あなたが変わる
315の言葉
最幸 315

青山敏弘選手推薦！ 斎藤一人さんの著書が生き方を変えてくれた。

斎藤一人さんの著書が生き方を変えてくれた。
いつも完璧を求めて苦しんでいた
自分に「人間は完璧でなくていいんだ」
と心を軽くしてくれただけでなく、
W杯出場という奇跡を与えてくれた。

サンフレッチェ広島所属・2014年W杯日本代表
青山敏弘

©2015 S.FC

KKロングセラーズ

KKロングセラーズ